

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	〒027-0421 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	令和6年8月25日	評価結果市町村受理日	令和7年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じ取れるように、ほぼ毎日の散歩や地域行事の参加、一緒に 買い物に行き地元野菜を取り入れた食事を提供している。職員と一緒に草取りや畑の手入れ・簡単な掃除・手作業等ご自身の役割として取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は岩泉町小本地区の中心にあり、徒歩数分のところに防災センター、小本支所、診療所があり公的機関との連携が取りやすい環境となっている。また、事業所の敷地内には系列会社が運営する小規模多機能センターがあり避難訓練や災害時の避難などには、お互い協力し対応している。運営会社の理念「こころやさしく」を基本に、職員全員で話し合い『「ありがとう」気持ちと笑顔を届けよう。』を事業所独自の理念として定め、介護を実践している。医療面では、済生会岩泉病院が協力医療機関となっており、月2回の訪問診療、緊急時には24時間体制で患者対応をしてくれており利用者と家族の安心につながっている。町が設置したテレビ電話により早期に災害情報が入り、避難準備等素早い対応がとれる体制ができています。役場の仲介により、地域の民間企業(2社)と災害協力隊として提携を結んでおり地域の協力体制も整っている。三鉄小本駅、岩泉龍泉洞インターチェンジもすぐ近くにあり交通の便もとても良い。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様からよく聞かれる『ありがとう』という言葉を取り入れて事業所独自の理念を作成し業務の中でもたくさん使うようにしている。	運営会社の理念「こころやさしく」を実践に反映させるため、事業所独自で理念づくりに取り組んだ。利用者を見つめ直した上で職員全員で話し合った結果、新しい理念を『「ありがとう」気持ちと笑顔を届けましょう。』と改め、日々利用者支援で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に食材の買い出しを近所の商店で行う。施設の修繕等も出来るだけ地元業者をお願いしている。	自治会に加入している。地域の行事の七つ舞、盆踊りには歩いて、或いはバスの車窓から見学して楽しんでいる。近隣の農家の方や職員から野菜等のおすそ分けも多く、また、近くのスーパーに利用者と一緒に食材の買い出しに出かけた際にも日常的な交流がある。近隣の方からの認知症や介護の相談には、その都度対応しており、地域住民から頼りにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護の相談は随時受け付けている。入所申請の際に認知症の困り事を聞く機会が多く、可能な範囲で助言等を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価後の報告を行い、運営推進会議委員の意見等を活動に活かしている。	参集方式の会議を年6回開催している。メンバーに地域振興協議会や支所長が入っており、地域や町の情報が会議を通じて運営に活かされている。地域支援者として隣人も委員に加わっており、有事には心強く助かっている。職員が記録者として出席し、経験を広げる機会にもなっている。困難ケースがあった場合には会議で報告し、意見をいただいている。	会議では、地域の様々な分野で活動されている方々から多種多様な情報や意見が出され、事業所と地域とが情報共有する良い機会となっています。地域と事業所が協力して「良いものにしていく」との熱い思いが感じられます。今後とも地域とともにあり続けることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	テレビ電話を(ピーちゃんねっと)使い些細な事も報告・相談できている。また、難事ケースが発生した場合の相談できる体制が出来ている。	運営推進会議の委員に支所長が入っており、町や地域の情報が素早く入ってくる。岩泉町では全戸にテレビ電話が設置され、些細なことから困難ケースの相談にまで利用するなど、行政との協力体制が築かれている。地域の民間企業との防災協力について協定を締結することが出来たのも、町の仲介によるところが大きい。		

令和 6 年度

事業所名 : あお空グループホーム小本

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や不穏行動の際は寄り添い・見守りを行うようにしている。日中は玄関の施錠もする事はない。身体拘束については、理解しているが定期的に研修や廃止についての検討会を開いている。	身体拘束についての方針を契約書に記載している。研修を年2回実施し、身体拘束の弊害やスピーチロックなどについて職員が持ち回りで研修に携わり、職員自身の意識啓発にも繋がっている。外部研修に職員を派遣し、資質の向上に取り組んでいる。毎月のミーティング時に身体拘束廃止実行委員会を開催して振り返りを行うなど、職員意識の向上が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内での研修会を開催している。気持ちにゆとりをもってケアできるように職員間で協力し合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は『権利擁護』に関する研修に参加し学習している。必要なケースの場合は関係者(包括)と話し合う体制も出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申請の際に利用について説明し、質問を受けている。契約の際もわかりやすい言葉をつけながら行うよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価や情報の公表とで外部者へ表す機会になっている。家族や利用者からの意見・要望は少ないため、意見や要望が有った場合は、大切に受け止め運営に反映するようにしている。	家族が遠方に住んでいる利用者が多く意見等はないが、面会時や通院時に相談や要望を伺っている。昨年度、利用者から食後にコーヒーが飲みたいとの要望があり、現在も提供を続けている。利用者との日常の生活の係わりの中で、表情やしぐさから思いを汲み取りながら、支援に反映させている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送りやミーティングに参加し、意見や提案は内容にも寄るが随時反映させている。	管理者が、申し送りやミーティング時、日常のコミュニケーションの中で職員から要望等を聞いている。記録をとる場所を広げてほしい、農園をどうしたらいいかなどの身近な相談から、服薬の方法、保護者への連絡の在り方などの提案があり、介護に活かしている。職場の人間関係が良好であることから、日頃からコミュニケーションが図られており、利用者支援に随時反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	担当利用者や係り用の役割があり、責任をもって業務にあたっている。職員間の協力体制も出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加出来るようになっていく。資格取得のための支援制度もあり、活用している職員もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所と電話や訪問等の交流があり、情報交換している。地元の同業者とも意見交換できる体制が出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談や家族・担当のケアマネを通じて困り事等の情報を収集している。安心できるように職員は寄り添い傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請の時に家族と面談し困り事を傾聴する。サービス利用や入院中の場合は事業所からも情報を収集し関係作りに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にも面会し必要な支援内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る家事を一緒に行う等、協力し合う関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事務所や玄関先での面会や墓参り自宅への外泊等も出来ている。拒否の強い利用者様への声掛け等家族の協力を受ける事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での問題があり関係を続けられない利用者もいらっしゃる。落ち着いたところを見計らい、ドライブで自宅周辺をコースに取り入れている。	家族の面会は、月1回の方が2人、お盆や彼岸などには数名の家族が面会に来ている。家族以外では近所の人や親戚が面会に訪れたり、同級生から利用者に会いたいとの電話があれば、相互の関係が途切れないよう配慮している。美容師が2ヵ月に1回訪問しており、新たな馴染みとなっている。ドライブの際には、本人の自宅周辺の店で買い物をするなどの工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないような席替えで工夫している。又、利用者同士だけでゆっくり会話ができるスペースが有る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所の場合は情報提供している。家族等から相談を受ける場合は随時対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活で気付いた事は申し送りやミーティングで情報を共有している。	利用者の思いや意向は日々の関わりの中から把握に努めている。会話で把握が難しい方については、表情や仕草から本人本位に意向等を推察して対応している。昼食を食べながら、季節を話題にして郷土料理などの得意なことを話の糸口に過去の経験に触れたり、コーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気の中での会話から意向の把握に努めている。担当職員を2年ごとに変更し、全職員が利用者の状況を把握し、様々な面からアプローチできるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等の情報収集している。関りや雑談の中で聞かれる家族関係や思い出話から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や出来る事と、難しい事を把握している。小さな変化を見逃さない様に観察を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで担当者から現状の報告を受け、支援内容や課題を全体で話し合っている。意見やアイデアは随時反映するようにしている。	介護計画は管理者が素案を作成している。入居時に作成した介護計画は概ね1ヵ月程度で見直し、その後は3ヵ月を基本に見直しをしている。モニタリングは3ヵ月ごとに管理者が行い、毎月1回全職員でカンファレンスを実施している。担当職員を2年ごとに変更し、全職員が利用者の状況を把握できるようにしている。家族からの意見や要望は、面会の際や文書送付時に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記載し、申し送りノートや業務日誌を通じて情報を共有している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の動向やお祭り見学等楽しみながら暮らしを継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用しかかりつけ医との関係は築けている。訪問診療以外の受診の場合は、日頃の状況が分かりように手紙や血圧を記載したものを、医師宛てに作成している。	利用者は入居前からのかかりつけ医又は済生会岩泉病院による月2回の訪問診療を受診している。家族が通院に付き添う際は、家族に生活状況を伝え、受診結果の報告を受けている。職員が付き添った場合には、受診結果を家族に報告している。専門科の外来(皮膚科)はほぼ職員が通院対応している。町運営の移動診療が週2回(木曜日、金曜日)ある歯科診療では、口腔ケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員は気づきや健康状態の変化を看護師に相談している。受診の際に適切な診療を受けられるように、口頭又はメモで情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供書を作成し情報提供している。退院が近くなるころに病院関係者と情報交換や、直接面会を行い退院後の生活を円滑に送れるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能の低下については家族に随時報告している。面会や遠方の場合は電話を利用し今後の対応について家族の意向を確認する。	家族から要望がないこともあり、事業所として看取りは行っていない。緊急時や重度化した場合の対応については、医療機関や主治医と事業所との関係が良く、連携に不安はない。利用者が重度化し事業所での対応が難しくなった場合には、利用者・家族の意向を確認し、医師の助言を得ながら入院又は特養等への入所を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方、心肺蘇生法の講習は受けている。救急車の要請方法は研修で確認している。急変の疑いのある利用者については、看護師から指導を受ける事もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回実施。防災係りを中心に、避難用品の準備や避難場所の確認をしている。地域の企業と協力体制等も出来てTる。	年2回の火災による避難訓練(夜間を含む)と水害訓練(11月)を小規模多機能ホームと合同で行なっている。ハザードマップで洪水浸水想定区域に指定され、近くの防災センター(3階建て)が避難場所である。発災時でもエレベーターは自家発電で動き、避難に際しては、地域の民間企業(2社)と災害協力隊として提携を結ぶなど、地域との協力体制も整っている。また、職員は通勤5分圏内に5人が居住し、職員の対応が可能な体制となっている。職員宿舎の1室に食料3日分と日用品等を備蓄している。管理者は、通報訓練や召集訓練を実施することもよいのではないかとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣は、他の目に付かないところで行う。排泄確認も耳元で小さな声で聞いている。オムツ類の保管は、クローゼット内や物を掛ける等入り口から見えない工夫をしている。	利用者の得意なこと、例えば、和裁、洋裁、畑作業などを奨励し、その人らしく生活できるよう支援している。利用者のやりたいことや得意なことをケアプランに取り入れ、個々人の生きがいや誇りを意識したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ドライブの場所や参加の有無、行事食の献立等意見を聞いている。おやつや飲み物バイキングを開き、各自で選ぶこともある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制で叶わないこともあるが、起床や食事・入浴等無理させたり急がせることはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師の訪問を受け、カットやパーマ・ヘアカラーが出来る。男性は近所の理容院でカットや髭剃りを出来ている。朝の洗顔の際に髪を溶かし、長い髪の利用者は結ぶ等のセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜を一緒に収穫したり、頂いた季節の野菜を下こしらえている。時には、テイクアウトの寿司を頼むなど目先を変えて食事を楽しめるようにしている。食事のあいさつや下膳・テーブル拭きは出来る両社が協力している。	献立表はなく、近所の方や農園からいただいた野菜や、利用者と職員と一緒に近所の商店から購入した食材、冷凍食品など、あるものを調理して食事を提供している。利用者はテーブル拭きやお盆拭きなどを手伝っている。季節行事食や郷土料理、誕生日メニューなど、職員のアイデアと工夫で楽しんでいる。系列の事業所を見学した際の気づきを献立作りに生かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完食できるように量を調整している、機能に合わせ刻み食やミキサー食の提供もしている。水分補給は記録用紙を使い摂取量を確認している、夏季は午前と午後に水分補給の時間を増やし、果物・ジュース・手作りゼリーなど摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施、職員が全て介助する事もある。夕食後は、入れ歯洗浄剤を使い毎日消毒している。近所の歯医者で治療や入れ歯調整のため受診対応もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のパターンに合わせ、声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を使用し一人一人の習慣やパターンをを観察し、静かにトイレに誘導している。排泄を失敗した際には、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアに心掛けている。3人の利用者が、リハビリパンツ利用から布パンツに改善するなど、排泄の自立に向けたきめ細やかな支援を行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し散歩や運動を心掛けている。排便確認表を使い、便秘が続く場合は薬に頼る事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分の乗らない場合は別日に変更している。拒否の強い場合は清拭やシャワー・足浴等に対応することもある。	入浴は月曜日から金曜日の午後で利用者は週2回入浴している。入浴を嫌がる方には声掛けの仕方、入浴時間や翌日へ変更するなどの工夫をしている。職員との会話などでリラックスできるよう配慮している。入浴剤は、浴槽の底が見えなくなることや滑るため使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように寝具や空調等の環境を整えている。習慣や身体機能に応じて、ベッドの位置や向きを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し理解できている。看護師と担当職員が残薬の管理をしている。わからない事や飲み方等はかかりつけ薬局に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を理解し、役割にしている。空き時間に利用者間で交流できるようにコーヒーや菓子等を準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課にしている。歩けない方は車椅子を使ったり、気分が乗らない場合は、日光浴をしていただく。地域のお祭りに出かけたり、海や花を見にドライブを計画している。	天気が良ければ散歩に出かけたり菜園の草取りをしたりしている。地域の行事や祭りを見学し楽しんでいる。利用者の要望を聞きながら花見や海岸へのドライブを楽しんでいる。家族の面会や通院の際には、外出したり自宅に1泊してくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の了解のもと少額のお金を管理している。希望があれば近所の商店やコンビニに散歩のついでに寄る事も可能。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームで発行する広報に、担当職員から日常の様子を報告する手紙を同封している。携帯電話の使用やホームの電話、テレビ電話から家族や大切な人への連絡を取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファを置き、くつろげるようにしている。玄関先にはベンチを置いて、ちょっとした面会や日光浴・息抜きが出来る環境を作っている。	日中利用者が過ごしている食堂ホールは、エアコンにより快適な温度が保たれている。ブラインドで調光にも配慮されている。観葉植物を配置し、利用者と職員と一緒に作成した季節感のある飾りつけがされている。ホールでレクリエーションを行っており、来月は室内運動会を実施する予定である。玄関先のベンチで日光浴や季節の移り替わりを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の廊下にソファを置き、気の合った仲間同士で会話を楽しんだりできるようにしている。また、居室は一人部屋のため、自分だけの場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物の持ち込み出来る事を伝えている。テレビや写真・使い慣れたカバン等を持参している。物が増えすぎない様に、担当職員は家族や本人と相談し調整している。	居室は2階にあるが、エレベーターが設置されており車椅子で移動が可能である。居室にはエアコン、ベッド、チェスト、クローゼット、カーテンが備え付けられ、そこに使い慣れたものを置き、手芸作品が飾られたり、テレビを持ち込んだりしてくつろげる空間となっている。本人家族と相談しながら、物が増えすぎないよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で椅子を動かしても異音が出にくいように、椅子の足カバーを付けている。使用する福祉用具や歩行能力をから、移動が自立できるように咳を考えている。		